

交通事故防止対策優良事業場表彰を受賞して

—中部横断自動車道 佐久穂地区改良6工事—

大日本土木株式会社 東京支店
地整佐久穂改良作業所
現場代理人 川添 健央

1. はじめに

この度、一般社団法人日本建設業連合会公衆災害対策委員会より、栄誉ある交通事故防止対策優良事業場の表彰を賜り、誠にありがとうございました。これもひとえに公衆災害対策委員会交通対策部会をはじめ、発注者である国土交通省関東地方整備局ならびに関係各位のご支援、ご指導の賜物と厚く感謝申し上げます。

2. 工事概要および周辺環境

『中部横断自動車道』は、静岡県静岡市を起点とし、山梨県甲斐市を經由して長野県小諸市に至る、延長 132 km の高速自動車国道です。中部横断自動車道が整備されることにより、新東名高速道路をはじめ、中央自動車道、上信越自動車道が接続され、日本海及び太平洋の臨海部と内陸部と



工事進捗状況

の連携を深め、長野・山梨県との連携・交流の促進、沿道の方々が安心して暮らせるネットワークの構築、物流体系の確立や広域的観光、地域の産業経済の振興等に寄与するものと期待されています。

当社が担当する工事は、上信越自動車道（佐久小諸 JCT）から中央自動車道（長坂 JCT）を結ぶ中部横断自動車道のうち、佐久穂町の延長 840m、最大掘削深さが 40m の大断面切土工事です。総運搬土量約 320,000 m³ の掘削工事及び大型コンクリートブロック工約 10,350 m³ を構築するものです。

掘削土は全て場外に搬出となり、1日当たり約 1,200 m³ の土砂をダンプトラック 40 台/日にて搬出しています。

3. 交通事故防止対策

(1) 車両運行管理システムの採用

(スマートフォンによる車両の運行管理)

ダンプトラックに GPS 内臓のスマートフォンを搭載することで、各車両の位置情報をリアルタイムに収集し、車両の運転履歴、走行軌跡、速度超過等の管理を行い、事務所のモニター地図上で現



中部横断自動車道概要図

在位置をリアルタイムで確認しています。

運搬ルートの実地調査をもとに電子ハザードマップを作成し、危険ポイントの情報を運行管理システムに登録することで、登録したエリアに車両が進入すると、音声メッセージによるガイダンスが流れ運転手への注意喚起を行っています。

(2) ブレーキテストによる安全運転指導

土砂を積んで長距離を走行することから、特にブレーキの点検には注意を払って、職員立会いのもとで運転手への安全運転指導を行っています。ダンプトラックの始業前点検及び土砂を積んで工事現場を出る時にブレーキテスト場所でブレーキの状態を確認させています。

(3) カラーコーン色分けによる作業ヤードの明示

ダンプ走路、安全通路、危険箇所、資材置場ごとに色分けしたカラーコーン及び『のぼり旗』にて施工エリアを明示して、運転手や作業員へのヒューマンエラー防止に努めています。

(4) 重機接触防止の工夫

(無線式重機接近警報装置『HESAR』の採用)

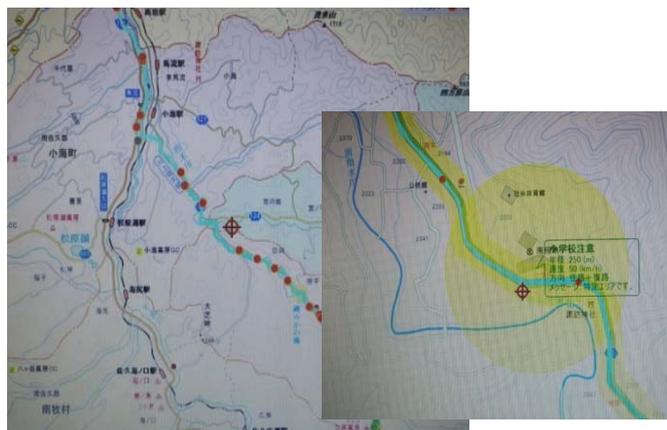
重機には警報表示器、外部アンテナを設置し、現場入場者には IC タグを携帯させて、重機に設置したアンテナが IC タグの信号を検知すると、警報表示器から LED とブザー音で重機オペレーターに警報を発する方法にて重機接触災害の防止に努めています。



警報表示器・IC タグ

(5) 地域住民等への配慮

地域住民が通る一般歩道と接する作業所敷地内に、地域住民対策として休憩所『げんでるほっとステーション』を設置して、工事進捗状況等の掲



事務所モニターによる監視



ブレーキテスト場所での確認



カラーコーン・のぼり旗による明示



休憩所『げんでるほっとステーション』

示を行い、近隣住民とのコミュニケーションに努めています。

4. おわりに

平成 28 年 12 月現在、工事進捗は 55%で無災害時間が 12 万時間超えましたが、今後も『全員参加で意識改革 “なくそうヒューマンエラー”』という基本方針のもと、事前の計画で安全を先取りし、

一人ひとりが安全に対する意識をさらに高めていくとともに、周辺地域に配慮した施工を行って参ります。今後とも日本建設業連合会公衆災害対策委員会をはじめ関係者の皆様方には一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

〔 2016 年 12 月 14 日 優良事業場表彰式
日建連 公衆災害対策委員長 表彰現場 〕